

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科	年度/時期	授 業 形 態
情報処理	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必 須	田井 麻友美 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

情報の授受に効果的なコンピュータの利用法を理解し、必要なデータや情報を有効活用できるようになるために、インターネットを利用した情報の収集、開示などに関する基本的知識、技能及び態度を習得する。

【実務経験有】田井 麻友美:MCT2010等の資格をもち、企業等での指導経験も踏まえて、学生が社会に出てから必要なスキルを教授できる。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. コンピュータを構成する基本的装置を列記できる。
2. ワープロソフト、表計算ソフトおよびグラフィックソフトを用いて資料が作成できる。
3. ソフトウェア使用上のルールとマナーを述べることができる。

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	Wordの基本	1)Wordの起動と終了 2)Wordの画面構成	・Windowsの概要、Wordの概要を学習する ・Wordの画面の名称と役割
2	文字の入力と編集の 基本操作	1)文字の入力方法をマスターする 2)文書の保存	・漢字の変換、変換候補の選択 ・名前をつけて保存
3	文書の編集	1)ページの書式設定 2)文字幅と文字間隔の設定	・ページ設定 ・右揃え、中央揃え、インデント
4	文書の印刷	1)改ページの挿入・ヘッダーとフッターの設定 2)段落番号の書式設定・タブ・インデント	・印刷プレビュー
5	文書の作成	3)ビジネス文書の作成例	・表の構成、表の作成方法 ・表、行、列、範囲選択
6	表を使った文書の作成	1)表の作成 2)表の編集	・箇条書き ・ヘッダー・フッター
7		3)文字列から表を作成する	・クリップアート ・ワードアート
8	図や画像を使った 文書の作成	1)図形の作成・編集 2)テキストボックス・ワードアートの挿入	
9	Excelの基本 データの編集	1)Excelの基本要素と基本動作 2)データの入力・関数の入力	・Excelの画面の名称と役割 ・データの移動、コピー、クリア
10	表の編集	1)罫線の設定 2)セルの書式設定	・相対参照、絶対参照を学習する ・セルを結合して中央揃え
11		3)表示形式の設定 4)列幅や行の高さの調整	・フォントサイズ、フォントの色の設定 ・行の削除・挿入
12	ブックの印刷	1)ページ設定の変更 2)印刷範囲の指定	・改ページプレビュー
13	グラフと図形の作成	1)グラフの作成	・グラフツール ・グラフのスタイル
14	グラフと図形の作成 ブックの利用と管理	2)図形の作成 1)ワークシートの管理	・作業グループ ・MAX関数、MIN関数、COUNT関数
15	関数	1)統計関数 2)数学/三角関数	・SUM関数、AVERAGE関数を学習する
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

[使用テキスト]

・「よくわかるMicrosoft Excel&Word2016」
富士通エフ・オー・エム株式会社 FOM出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1) 科目終了時の試験評価	: 60%
2) 課題提出状況	: 30%
3) 出席率	: 10%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
ビジネス実務	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	北原 恵子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>我が国の医療制度は公的な支援によって運営されており、だれでも等しく医療を受けられる特徴を有している。医療現場で働く歯科衛生士として、医療制度の仕組みを理解し、その一端を担っている責任と役割を理解することが必要である。</p> <p>また、社会人としての常識やマナーを身につけ、医療現場で必要とされる人材になることを目指す。</p> <p>【実務経験有】北原 恵子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科医療現場におけるビジネスマナーを学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保障制度のしくみとその特徴について説明できる。 2. 保険請求の流れを理解し、図に表わすことができる。 3. 介護保険制度の仕組みについて概説できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	医療機関	1)医療機関の分類	<ul style="list-style-type: none"> ・医療保険の仕組み ・医療機関と医療保険の関係 ・医療費請求 ・さまざまな助成制度 ・医療人の義務 ・患者とのかかわり ・サービス
2	医療保障制度	1)医療保障制度の体系 2)医療保険制度	
3	保険給付	3)医療保険の種類・被保険者証 1)保険給付の範囲と種類	
4		2)給付率と患者負担 3)保険外併用医療費	
5	公費負担医療	4)レセプト請求 1)公費負担医療制度の概要	
6	その他の医療関係制	1)労災保険	
7	医療スタッフの心構え	2)介護保険 1)守秘義務	
8	まとめ	2)サービス業	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・歯科医療事務テキスト1 医療保障制度		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 90%
		2) 出席率	: 10%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
国際歯科衛生士学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	松田 珠生

[授業の目的・ねらい]

歯科で必要とされる語学の基礎力を身につけるために、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基本的知識と能力を習得する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 歯科衛生学に関連する外国語のうち代表的なものを列举できる。
2. 短い日本語を文法にかなった外国語に直すことができる。
3. 外国語の日常会話を聞いて内容を理解できる。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	・自己紹介の表現・クラスルーム英語	<p style="text-align: center;">事前学習</p> <p>次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する</p>
2	診療室での英会話 歯科単語	・歯科単語(歯科医療に携わる者)	
3		・歯科英語・単語 ・「Passport」・Would you like AorB? ・「Passport」・Would you like some~?	
4		・歯科英語 ・単語復習	
5		・「Passport」・Could I have some~?	
6		・国名・都市名の言い方 ・感想を言う表現 ・How was your~?	
7		・歯科英語	
8		・新出単語	
9		・歯科英語	
10		・新出単語	
11		・歯科英語	
12		・新出単語	
13		・歯科英語	
14		・新出単語	
15		・歯科英語 ・新出単語 ・まとめ	

[使用テキスト]

<p>・プリント</p>	<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)</p> <p>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</p> <p>2) 出席率 : 10%</p>
--------------	---

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保存学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	岡村 純子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。 【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科保存療法に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 歯の硬組織疾患の種類と処置法を説明できる。 2. 窩洞の名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。 3. 修復処置に使用する器材の目的を説明できる。 4. 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を説明できる。 5. 歯髄の保存療法を説明できる。 7. 外科的歯内療法の種類と適応症を説明できる。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	総論	1)歯の保存療法の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・齶蝕、歯の外傷、歯の損傷、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周疾患 ・窩洞の分類 ・切削器具 ・防湿法、歯間分離法、歯肉排除法、隔壁法、除痛法 ・銀アマルガム ・化学重合型・光重合型コンポジットレジン ・ガラスアイオノマーセメント ・ラミネートベニア修復 ・インレー修復 ・生活歯漂白 ・齶窩の開拡、薬剤の種類と所要性質、歯髄鎮静療法、覆髄法、暫間的間接覆髄法 ・除痛法、歯髄切断法、抜髄法 ・感染根管治療 ・根管充填法 ・膿胞切開、根管搔爬、根尖切除、歯根切断法、歯根分離法、ヘミセクション、歯内骨内インプラント、再植、移植
2	保存修復学	2)口腔診査	
3		1)保存修復学の意味と概要	
4		2)アマルガム修復	
5		3)コンポジットレジン修復	
6		4)ガラスアイオノマーセメント修復	
7		5)ラミネートベニア修復	
8		6)鋳造修復	
9		7)その他の修復法	
10	歯内療法学	1)歯内療法学の概要	
11		2)歯科衛生士と歯内療法	
12		3)歯髄の保存療法	
13		4)歯髄の除去療法	
14		5)根管治療・根管充填	
15	6)外科的歯内療法		
		7)歯内療法における偶発症	
		8)歯内療法に使われる薬剤・器材	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周療法学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	岡村 純子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。 【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯周療法に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病の種類と病態を説明できる。 2. 歯周治療の流れを説明できる。 3. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。 4. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。 5. 歯周治療後の再評価ができる。 6. 歯周治療後のメンテナンス、SPTについてを説明できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯周治療の基礎知識	1) 歯周疾患の現状と治療	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患の罹患状況 ・歯周治療の目的 ・歯肉・歯根膜・歯槽骨・セメント質 ・歯周組織の加齢に伴う変化 ・歯肉の発赤・腫脹 ・出血・排膿・動揺 ・歯肉炎と歯周炎の違い ・単純性歯肉炎と複雑性歯肉炎 ・正常な歯肉と歯周ポケットの細菌 ・プラークの組成と歯周疾患 ・外傷性咬合 ・歯周疾患の分類とその特徴 ・歯周疾患と全身疾患の関連 ・最新の研究結果を知り、関連性を理解できる ・歯周治療の内容と進め方 ・歯周組織の破壊の程度と診査方法 ・原因となる因子と咬合の診査 ・歯周疾患におけるエックス線写真読影 ・歯周基本治療の効果と実際 ・目的と分類 ・用いる器具の名称と用途 ・咬合調整、矯正治療の意義 ・固定法、欠損補綴の意義と方法 ・インプラント治療のメンテナンス ・メンテナンスの意義、目的、方法 ・歯周組織検査・診断時の補助
2		2) 正常な歯周組織の構造と機能	
3	歯周疾患	3) 歯周組織の機能	
4		4) 歯周組織の防御機構と再生能力	
5	歯周疾患の原因	1) 歯周疾患の症候と症状	
6	歯周疾患の分類	2) 歯肉炎と歯周炎	
7	歯周医学	1) 局所因子	
8	歯周治療の進め方	2) 全身性因子	
9	歯周疾患の診査	3) 機能性修飾因子	
10	歯周基本治療	1) 歯肉炎	
11	歯周外科治療	1) 歯周疾患と全身疾患の関連性	
12	歯周治療としての リハビリテーション	1) 歯周疾患の予防と治療の基本	
13	メンテナンス	2) 歯周疾患の治療方針	
14	歯周治療における 歯科衛生士の役割	1) 一般診査と歯周組織検査歯周組織の検査	
15		2) エックス線写真による診査	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本「歯周病学」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科補綴学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	池田 優佳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。 【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科補綴学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 歯列の形態と位置的關係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。 2. 補綴装置の種類と適応を説明できる。 3. 支台装置とポンティックの選択、特徴および製作方法を概説できる。 4. 可撤性義歯の支持機構、把持機構および維持機構を説明できる。 5. 補綴治療の臨床ステップおよび技工操作を概説できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科補綴治療に関する基礎知識	1) 歯科補綴治療とは	・補綴治療の意義と目的
2		2) 補綴治療の種類と適応	・Speeの彎曲、ウィルソンの彎曲、モンソンカーブ
3		3) 歯列弓の形態とその対合關係 歯列と顎堤・咬合様式と対合關係	・咬合平面・フランクフルト平面・カンペル平面・前頭面・矢状面・水平面
4		4) 補綴歯科治療で重要な基準平面	・咀嚼パターン
5		5) 顎口腔系の機能 咀嚼・嚥下・発音・感覚・唾液分泌	・下顎安静位・中心咬合位・咬合嵌合位
6		6) 歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療 下顎位と下顎運動	・顎関節とその異常
7	クラウン	1) クラウンの分類	★まとめ小テスト
8		2) クラウンの臨床ステップ クラウンの診査・診断から装着・術後管理	・全部被覆冠と一部被覆冠 ・患者指導
9	ブリッジ	1) ブリッジの特徴と構成	・ポンティック・支台装置・連結部
10		2) ブリッジの臨床ステップ ブリッジの診査・診断から装着・術後管理	・ブリッジの清掃指導
11	部分床義歯	1) 部分床義歯の構成	★まとめ小テスト
12		2) 部分床義歯の臨床ステップ 部分床義歯の診査・診断から装着・術後管理	・義歯床・人工歯 ・支台装置(クラスプ・アタッチメント) ・連結装置(リングバー・パラタルバー)
13	全部床義歯	1) 全部床義歯の構成	・技工操作の概要
14	インプラント治療の実際	2) 全部床義歯の臨床ステップ 全部床義歯の診査・診断から装着・術後管理・特殊な義歯	・オーバードンチャー・インプラント義歯
15	補綴治療に用いられる機材とその管理	1) インプラントとは 2) インプラント治療の流れ、メンテナンス	・ブランクコントロール、PTC
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔外科学・麻酔学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	上里 博世(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病態、診断法および治療法を理解する。 【実務経験有】上里 博世:歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔外科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔・顎顔面領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。 2. 先天異常と発育異常の病態と治療法を概説できる。 3. 各種口腔粘膜疾患の特徴と治療法を概説できる。 4. 顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の特徴と治療法を概説できる。 5. 口腔・顎顔面領域の良性腫瘍、悪性腫瘍、腫瘍類似疾患の種類と特徴および治療法を概説できる。 6. 抜歯・口腔外科小手術の手順を説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	顎・口腔粘膜疾患と 口腔外科	1)口腔外科の概要	・口腔病変と全身疾患
2		・口腔外科とは	・口腔領域の先天異常・変形
3		2)顎・口腔領域の先天異常と発育異常	・口唇裂・口蓋裂
4		3)顎・口腔領域の損傷および機能障害	・軟組織の損傷
5		4)口腔粘膜の病変	・歯および歯槽の損傷、顎骨骨折
6		5)顎・口腔領域の化膿性炎症疾患	・水泡形成、紅斑、潰瘍
7		6)顎・口腔領域の嚢胞性疾患	・粘膜
8		7)顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	・顎骨、周囲組織の炎症
9		8)唾液腺疾患	・顎骨に発生する嚢胞
10		9)口腔乾燥症	・軟組織に発生する嚢胞
11	歯科治療と歯科麻酔	10)口腔領域の神経疾患	・腫瘍の分類
12		11)口腔外科診療の実際	・歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍
13		1) 歯科麻酔と患者管理	・唾液と唾液腺
14		2)口腔出血に対する処置法	・唾液腺疾患
15		1)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・顎口腔の知覚神経と運動神経
16	口腔外科・歯科麻酔の 臨床 術前・術後のケアと器 材管理 まとめ	2)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・神経麻痺・痙攣
17		1)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・抜歯、切開、排膿、歯槽骨形成、埋伏歯抜歯
18		2)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・局所麻酔
19	口腔外科・歯科麻酔の 臨床 術前・術後のケアと器 材管理 まとめ	1)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・精神鎮静法
20		2)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・全身麻酔
21	口腔外科・歯科麻酔の 臨床 術前・術後のケアと器 材管理 まとめ	1)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・救急蘇生法
22		2)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・バイタルサイン
23	口腔外科・歯科麻酔の 臨床 術前・術後のケアと器 材管理 まとめ	1)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・ショックの救急処置
24		2)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・局所麻酔、全身麻酔、精神鎮静法
25	口腔外科・歯科麻酔の 臨床 術前・術後のケアと器 材管理 まとめ	1)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	・術前、術後セルフケアとプロフェッショナルケア
26		2)口腔外科・歯科麻酔処置における業務	★理解度確認小テスト
[使用テキスト]			事前学習
・最新歯科衛生士教本 「口腔外科学・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)			
・最新歯科衛生士教本 「口腔外科学・歯科麻酔」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児歯科学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	池田 耕士(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。 【実務経験有】池田 耕士: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに小児歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顎・顔面の成長発育とその障害を説明できる。 2. 各年齢における小児の正常な成長発達に関する事項を説明できる。 3. 歯列および咬合の発育と発育障害を説明できる。 4. 乳歯と幼若永久歯の形態的特徴ならびにう蝕の特徴を説明できる。 5. 小児のう蝕予防と進行抑制法を説明できる。 6. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児歯科学概論	1) 小児歯科学とは	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の発育段階・骨年齢・歯齡 ・器官の発育形式 ・発育状態の評価 ・生理的特徴 ・情動・感覚・言語・運動機能の発達 ・摂食嚥下機能の発達 ・歯の形成・萌出時期 ・歯の形成異常・萌出異常 ・リーウエイスペース・歯列、咬合の発育異常 ・不正咬合(機能的、骨格的、口腔習癖) ・齲蝕発生の原因 ・乳歯・幼若永久歯の特徴 ・感染性疾患・硬組織疾患・軟組織疾患 ・小児の歯周疾患・歯の異常・先天異常
2	心身の発育	2) 小児歯科診療の意義と目的 1) 発育の概念と分類	
3	顔面頭蓋の発育	2) 器官の発育・精神的発達・小児の生理的特徴 1) 顎顔面頭蓋の発育	
4	歯の発育とその異常	2) 発育の評価法 1) 歯の形成	
5	歯列・咬合の発育と異常	2) 歯の萌出 1) 歯列・咬合の発育	
6	小児の歯科疾患	2) 歯列・咬合の異常 1) 小児にみられる齲蝕	
7		2) 乳歯、幼若永久歯の齲蝕	
8		3) 小児にみられる歯周疾患	
9	小児歯科診療	4) 全身疾患に伴う歯周炎	
10		5) 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 口腔粘膜・歯肉・口唇・小帯の異常・唇顎口蓋裂	
11		1) 小児期の特徴と歯科的問題点	
12		2) 小児歯科における診療体系	
13		3) 小児歯科診療における原則	
14	小児歯科における患者との対処法	4) 母親教室	
15	障害者の歯科治療	5) 小児歯科における麻酔法	
		6) 小児の歯冠修復、歯内療法	
		7) 小児の外科的処置	
		8) 外傷の処置	
		9) 咬合誘導、フッ化ジアンミン塗布	
		10) リコール(定期健診)	
		1) 患児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係	
		2) 歯科診療時の対応法	
		1) 障害児における歯科の処置	
		2) 発達障害	
			<p style="text-align: center;">事前学習</p> <p>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</p>
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科放射線学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	池田 優佳 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な画像検査の特徴と適応ならびに放射線防護を理解する。 【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科放射線学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。 2. エックス線画像の形成原理を概説できる。 3. 頭部エックス線撮影の種類と適応を概説できる。 4. 口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。 5. 口内法エックス線写真とパノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる。 6. 基本的な病変のエックス線所見を概説できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	放射線とエックス線	1) 放射線とは 2) エックス線の物質との相互作用	・エックス線応用の意義 ・放射線の基礎知識
2	放射線の影響	1) 生体に対する影響 2) 放射線障害の分類	・放射線障害、防護用具の取り扱い ・防護の実際、被曝量の測定
3	歯科用エックス線撮影装置	1) 口内法エックス線撮影装置	・歯科用・パノラマ用撮影装置 ・デジタル撮影システム
4	エックス線画像の形成	1) 口内法と口外法の撮影に使用するフィルム 2) 良いエックス線写真と撮影時の幾何学的因子	
5	フィルム処理・デジタルエックス線システム	1) フィルム処理の流れ 2) デジタルエックス線撮影の特徴	・暗室、用具、暗室作業 ・デジタル撮影システム
6	正常なエックス線像	1) 口内法エックス線撮影の正常像 2) 歯および歯周組織	・撮影の前準備 ・頭部の固定 ・フィルムの位置、固定
7		1) 上顎前歯部	・二等分法と平行法、咬翼法と咬合法 ・正放射線投影と偏心投影
8		1) 上顎犬歯部・小臼歯部	
9		1) 上顎大臼歯部	
10		1) 下顎前歯部	
11		1) 上顎犬歯部・小臼歯部・大臼歯部	
12		1) パノラマエックス線撮影の正常像	・器材の準備 ・撮影の前準備、補助
13	病変の画像例	1) 生体に対する影響 2) 放射線障害の分類	
14	放射線の防護と管理	1) 放射線防護の目的 2) 放射線防護の実際	・局所的障害 ・全身的障害
15	放射線治療	1) 放射線治療とは 2) 放射線治療患者の口腔管理	
[使用テキスト]			事前学習
・歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学第3版 学建書院			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 90%
		2) 出席率	: 10%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科矯正学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	池田 優佳 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の診断および治療法を理解する。 【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科矯正学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯、歯列、咬合の役割と全身の関係を説明できる。 2. 不正咬合の種類を列挙できる。 3. 不正咬合の原因と障害を把握し、矯正治療の目的を説明できる。 4. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる。 5. 不正咬合に適した装置を識別し、その構造、機能を説明できる。 6. 矯正治療に用いる器具、器材とその取り扱いについて説明できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科矯正治療の概要	1) 歯科矯正学と歯科矯正治療の目的 2) 歯科矯正治療の需要と目的と必要性	・ベネフィット、リスク
2	成長・発育	1) 頭部・顎・顔面の成長発育 2) 顎の成長発育	・顎の発育 ・顔面の成長発育
3	正常咬合と不正咬合	1) 正常咬合 2) 不正咬合	・正常咬合 成立の条件と種類 ・不正咬合 歯の位置の異常
4		3) 不正咬合の分類・頻度 4) 不正咬合の原因と予防	歯列弓形態の異常 上下歯列弓関係の異常
5	矯正歯科診断	1) 矯正歯科治療における診断と必要な検査 2) 症例分析	・インフォームドコンセント ・形態検査、画像検査、機能検査
6	矯正歯科治療と力 ー矯正力・顎整形力・保定	1) 歯の移動と固定 2) 歯の移動様式	・適切な矯正力 ・歯の移動様式
7	矯正装置	1) 矯正装置の種類 2) 自然保定と機械保定	・舌側弧線装置 ・マルチブラケット装置
8	上下顎の前後的関係の不調和	1) アングルの分類	・顎外固定装置 ・床矯正装置
9	上下顎の垂直的關係の不調和	1) 過蓋咬合・開咬	・機械的矯正装置 ・歯列弓拡大装置
10	成人矯正	1) 補助的・包括的矯正歯科治療 2) 成人矯正歯科治療の実際	・保定装置
11	口腔顎顔面の形態異常と変形	1) 口唇・口蓋裂・先天異常 2) 顎変形症	
12	歯の埋伏と歯の異常	1) 埋伏歯 2) 先天欠如歯、過剰歯	
13	矯正歯科治療時のトラブルへの対応	1) 齶蝕、歯肉炎、歯周疾患、歯根吸収、顎関節症 2) アレルギー、トラブルへの対応	
14	健康保険が適用される矯正治療		
15	矯正治療に使用する器材とその取り扱い方	1) 主な矯正用器具とその取り扱い 2) 主な矯正材料とその使用方法	・プレイヤー(鉗子)の種類 事前学習 次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
障害者歯科学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	関 愛子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生業務を行うために必要な障害者(児)の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。</p> <p>【実務経験有】関 愛子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに障害者歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者(児)の概要を述べることができる。 2. 障害者(児)の全身的特徴と歯科的特徴を理解し、歯科保健医療の留意点を述べる。 3. 障害者(児)の歯科治療について説明できる。 4. 障害者(児)の歯科における医療安全について説明できる。 5. 障害者(児)の摂食・嚥下障害とリハビリテーションについて説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	障害の概念	1) 歯科医療におけるスペシャルニーズ 2) ノーマライゼーションとバリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の分類 ・ノーマライゼーション、バリアフリー
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	1) 精神発達・心理的発達と行動障害 2) 運動障害	<ul style="list-style-type: none"> ・精神遅滞(染色体異常) ・広汎性発達障害、ADHD、LD、脳性麻痺 ・筋ジストロフィー、脊髄損傷、関節リウマチ、脳血管障害、ALS
3		3) 感覚障害 4) 音声言語障害 5) 精神および行動の障害	<ul style="list-style-type: none"> ・知覚障害、聴覚障害 ・統合失調症、うつ病、てんかん、認知症、摂食障害
4	障害者の歯科医療と行動調整	1) コミュニケーションの方法 2) 行動療法 3) 体動のコントロール 4) 薬物的行動調整法	<ul style="list-style-type: none"> ・脱感作法、モデリング法、カウント法、フラッシュ法、オペラント条件づけ、トークンエコノミー、レスポンスコスト法、タイムアウト法、ボイスコントロール ・鎮静法、全身麻酔
5	健康支援と口腔衛生管理	1) 障害者本人や介護者が行う口腔のケア 2) 専門的口腔ケア 3) 特別な配慮が必要な必要患者の口腔衛生管理 4) リスク評価と安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・器質的口腔ケア、機能的口腔ケア
6	摂食嚥下リハビリテーション	1) 摂食・嚥下リハビリテーションとは 2) 摂食・嚥下障害と口腔保健管理・栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食5期、摂食嚥下障害と口腔管理、栄養管理 ・摂食嚥下障害の評価法
7		3) 摂食・嚥下療法の評価表 4) 摂食機能療法 5) 摂食・嚥下障害への対処法	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニングテスト
8	地域における障害者歯科	1) 障害者歯科と地域医療連携 2) 保健・医療・福祉のネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携
事前学習			
次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本「障害者歯科」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢者歯科学	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	木村 年秀 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。 【実務経験有】木村 年秀: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに高齢者歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化と口腔の加齢変化について説明できる。 2. 高齢者とのコミュニケーションにおいて配慮すべき点について説明できる。 3. 要介護高齢者の身体疾患と口腔疾患について説明できる。 4. 高齢者歯科における医療安全について説明できる。 5. 器質的・機能的口腔ケアについて説明できる。 6. 高齢者の摂食・嚥下機能と障害について説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	加齢による身体的・精神的変化	1) 加齢に伴う身体的機能の変化 2) 高齢者の精神・心理的变化 3) 高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多い全身疾患と口腔の関係 ・老化、うつ、せん妄 ・悪性腫瘍、脳血管障害、心臓病、肺炎、パーキンソン病、認知症、高血圧症、糖尿病 ・根面う蝕、歯周病、トゥース・ウェア ・咬合、義歯、口腔カンジタ症、扁平苔癬
3 4		高齢者の状態の把握	
5	口腔のケア	<ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者に対する口腔のケア 2) 有病高齢者への口腔のケア 3) 要介護高齢者への口腔のケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特徴 ・虚血性心疾患、脳血管疾患、化学放射線療法 ・高血圧、糖尿病、気管挿管 ・国際障害分類、国際生活機能分類 ・スクリーニングテスト
6	摂食・嚥下 リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> 1) 高齢者のリハビリテーションの概要 2) 摂食・嚥下の評価と対応 3) 誤嚥性肺炎の予防のための訓練 	
7		<ul style="list-style-type: none"> 4) 在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション 5) 介護施設における摂食嚥下リハビリテーション 	
8	高齢者にかかわる 医療と介護	<ul style="list-style-type: none"> 1) 在宅訪問診療の概要 2) かかりつけ歯科の役割 	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 		<ul style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病予防法(前期)	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位(60時間)	必須	北原 恵子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】北原 恵子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プローブの種類と操作方法を説明できる。 2. 歯・歯肉・口腔の検査ができる。 3. キュレットタイプスケーラーを操作できる。 4. 超音波スケーラーを操作できる。 5. 歯面研磨ができる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	1) 授業の流れと目標	
2	歯面研磨	1) 復習 ★マネキン実習 2) 歯面研磨用器材の基本操作 ★相互実習	★実技チェック ・相互実習の心構え ・固定とポジション ・姿勢
3			
4			
5	口腔内観察	1) 歯周検査の種類と内容 ★マネキン実習(復習) 2) 歯周精密検査 ★相互実習	・動揺度、コンタクトの検査 ・根分岐部の検査 ・精密検査(各検査) ・対象者からの情報収集 ・口腔内写真
6		(口腔内洗浄)	
7		(プロービング)	
8	超音波スケーラー	1) 超音波スケーラーとは ★マネキン実習 2) エアースケーラー、その他	・超音波スケーラーの種類 ・超音波スケーラーとエアースケーラーの違い ・超音波スケーラー操作の基本 ・使用目的 ・超音波スケーラー操作を正しく行なう
9			
10		3) 超音波スケーラーの操作	
11	基礎実習1	★マネキン実習	・適正角度 ・操作方法 ・把持の仕方
12			・固定、力、角度、動かし方
13	相互実習	1) 超音波スケーラーの相互実習	・超音波スケーラーを口腔内で正しく操作する
14		(下顎前歯部)	・患者への配慮
15		(上顎前歯部)	・患者の心理を学ぶ
		(右側臼歯部)	・一人でバキューム操作を行いスケーリングする
		(左側臼歯部)	次のページに続く
		2) 歯面清掃器(ハンディージェット)使用法	事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 ・プリント 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	基礎実習	1) 植立模型の歯石除去	<ul style="list-style-type: none"> ・人工歯石の付け方 ・植立模型の準備 ・固定と側方圧 ・グレーシーの基礎知識 ・ユニバーサルの基礎知識 ・キュレットスケーラーの目的 ・グレーシーとユニバーサルの違い ・キュレットスケーラーの形態 ・操作角度・挿入方法 ・側方圧 ・ディブライメントとは
17		2) キュレットとシックルの違いを理解する	
18			
19		3) 机上実習 (植立模型) (下顎前歯部) (上顎前歯部)	
20			
21			
22	基礎実習2	1) 植立模型でのスケーリング	<ul style="list-style-type: none"> ★実技チェック
23		★マネキン実習	
24		人工歯石の除去 (右側臼歯部) (左側臼歯部)	
25		★実技チェック	
26		キュレット基礎実習	
27	2) 下顎前歯部		<ul style="list-style-type: none"> ・操作角度 ・刃部を確実に歯面に当てる ・下顎前歯の形態と注意すべき箇所
28			
29	3) 下顎臼歯部		<ul style="list-style-type: none"> ・操作角度 ・刃部を確実に歯面に当てる ・小臼歯、大臼歯の形態と注意すべき点
30	4) 上顎臼歯部		
		<ul style="list-style-type: none"> ・操作角度 ・刃部を確実に歯面に当てる ・ルートプレーニング 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病予防法(後期)	歯科衛生学科/2年次	2019年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	横井 敦子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周病と全身疾患との関連について説明できる。 2. 対象者の歯周病リスクの評価方法を説明できる。 3. シャープニングができる。 4. 部位に応じてキュレットタイプスケーラーを操作できる。 5. 歯周病におけるメンテナンスの必要性を説明できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	キュレット基礎実習	1) 上顎前歯部	<ul style="list-style-type: none"> ★相互実習 ・歯肉を傷つけない挿入と操作 ・スケーラーの選択 ・ポジションと姿勢
2		2) 下顎前歯部	
3		3) 下顎臼歯部	
4		4) 上顎臼歯部	
5		一連の流れで実習(プロービングから歯面研磨まで)	
6	総合相互実習 (プロービング・超音波 スケーリング・グレー シーキュレット・歯面研 磨)	★相互実習	★実技チェック
7			
8			
9			
10		1) 部位やポケットの形態に適合した器具の選択	
11	2) 根面の状態に合わせた操作方法	<ul style="list-style-type: none"> ★マネキン実習 ・ルートプレーニング ・ディ・プラーキング ・側方圧・角度・挿入 	★実技チェック
12	シャープニング	1) シャープニングの意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> ★実技チェック ・適正角度 ・原型の形 ・砥石の動かし方と、刃先のシャープニング
13		2) シャープニングに使用する器材	
14		3) シャープニングの方法	
15	シクルスケーラーの シャープニング		★実技チェック
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 ・プリント 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論(前期)	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30 時間)	必須	坪田 ゆかり (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の生活習慣と生活環境を把握できる。 2. 歯・口腔の疾患と異常の観察と評価ができる。 3. 口腔清掃状態の評価ができる。 4. ブラッシング方法の選択と指導ができる。 5. 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	相互実習	1)問診	
2	相互実習	1)復習(ブラッシング法、補助的清掃用具、歯磨き剤、洗口剤)	
3	相互実習	1)口腔内診査、染色、ワンポイントブラッシング指導	
4	相互実習	2) 100%磨き、デンタルフロス	
5	相互実習	3)食生活指導(シュガーコントロール含む)	
6	相互実習		
7	相互実習	4)プラークコントロール (叢生・最後臼歯・矯正装置・ブリッジ・義歯インプラント)	
8	相互実習		
9	相互実習	1)乳幼児歯科保健指導 (プラークコントロール・食生活指導・PTC)	
10	相互実習		
11	相互実習	1)歯周疾患患者歯科保健指導 (プラークコントロール・食生活指導・PMTC)	
12	相互実習		
13	実習試験	小学校歯科保健指導	
14	実習試験	小学校歯科保健指導	
15	筆記試験	小学校歯科保健指導	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 全国歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版株式会社		1) 実習・実技評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論(後期)	歯科衛生学科/2年次	2019年度/後期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	坪田 ゆかり (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者、高齢者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 2. 口腔清掃自立度の評価ができる。 3. 口腔機能の現状を把握するためのアセスメントができる。 4. 口腔機能訓練(間接訓練、直接訓練)ができる。 5. 要介護高齢者への口腔のケアについての手技や注意点を説明できる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	高齢者をとりまく社会と環境	1) 高齢社会と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅環境、対象の把握 ・高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険 ・誤嚥性肺炎 <p style="text-align: center;">★理解度確認小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔清掃用具の使用法 <ul style="list-style-type: none"> ・脳性麻痺、知的障害、ダウン症候群 ・摂食・嚥下の5期 ・加齢変化 ・食事の介助、摂食・嚥下、食物形態の把握 ・弾性食品、粘性食品、硬性食品 ・オーラルディアドコネシス、反復唾液嚥下テスト ・水飲みテスト、改訂水飲みテスト、段階的フードテスト、頸部聴診 ・筋ストレッチ、脱感作療法、筋刺激訓練法 ・アイスマッサージ、嚥下反射促進手技 ・メンデルソン手技、咳反射、呼吸訓練 ・唾液腺、口腔周囲筋マッサージ ・口唇、舌、頬の機能訓練 ・嚥下訓練(間接訓練、直接訓練)
2	摂食嚥下のメカニズム	1) 摂食嚥下に関わる機能(生理)	
3	口腔ケアの概要		
4	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割	1) 高齢者体験(実習)	
5		2) 高齢者との接し方(コミュニケーションスキル)	
6	高齢者の口腔保健管理	1) 歯科衛生士による口腔保健管理	
7	歯科保健指導の実際	1) 歯の清掃、補綴物周辺の清掃 2) 舌の清掃、義歯の清掃と取り扱い	
8	摂食・嚥下機能の発達	1) 口腔領域の形態成長と機能発達	
9	摂食・嚥下障害とは	1) 小児の摂食・嚥下障害 2) 成人の摂食・嚥下障害 3) 高齢者の摂食・嚥下機能と障害	
10	食環境について <small>摂食嚥下障害と食物物性の関連</small>	1) 食環境指導・食形態・食内容・栄養管理 2) 食事介助	
11	歯科保健指導の実際と留意点	1) 歯科保健指導の実際	
12	摂食・嚥下における間接訓練・直接訓練	1) 間接訓練・直接訓練の位置づけ 2) 摂食・嚥下に対する間接訓練・直接訓練	
13	歯科衛生士が行う口腔ケア(実習)	1) 座位、寝たきり 2) 専門的口腔清掃	
14		3) 口腔ケアの流れ(情報収集～評価)	
15	摂食・嚥下リハビリテーションにおける連携	1) チームアプローチの概念 2) 多職種連携	
[使用テキスト]			事前学習
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版 ・最新歯科衛生士教本「障害者歯科」第2版 ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」第2版 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社 			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 90%
		2) 出席率	: 10%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論(前期)	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義・ 演習 ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位(60時間)	必須	白川 みずえ (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

様々なライフステージにおける歯科医療に対応するため、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を習得する。

【実務経験有】白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. コンポジットレジン修復の器具や材料の準備ができる。
2. 漂白法の種類を説明できる。
3. 歯髄処置の薬剤や器材の準備ができる。
4. 歯周外科治療の手順を説明できる。
5. 矯正治療に必要な機材の準備ができる。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	検査・診断時の業務	1) 医療面接と検査	・検査内容
2	口腔内診査	2) 治療の流れ・口腔診査 1) 口腔診査相互実習	★確認テスト
3	歯科診療の流れ		
4	保存修復時の診療補助	1) 歯間分離	・タッフルマイヤー型リテーナー
5		2) 隔壁マネキン実習	・ウェッジ、セパレーター、マトリックスパ
6		3) 歯髄保護	・水酸化カルシウム製剤
7		4) 直接修復の流れ	★確認テスト
8		5) コンポジットレジン充填実習(V級窩洞)	・窩洞形成
9		6) グラスアイオノマー充填実習	・接着前処理
10		7) 間接修復の流れ	・充填
11		8) 精密印象実習	・研磨
12		9) 仮封・合着	・シリコーンゴム連合印象法
13	補綴治療の診療補助	1) 補綴治療の検査	・寒天アルジネート連合印象法
14		2) クラウン・ブリッジの治療(生活歯)	・仮封材
15		3) クラウンブリッジの治療(失活歯)	・仮封材
		4) 全部床義歯、部分床義歯の治療の流れ	★確認テスト
		5) 義歯装着患者指導	・チェックバイト
		6) 技工関連の管理	・平行測定、咬合音測定
			次のページに続く
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する

[使用テキスト]

・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版
 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」
 「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」
 「歯周病学」第2版
 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- | | |
|------------|-------|
| 1) 実習・実技評価 | : 90% |
| 2) 出席率 | : 10% |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	歯内療法時の診療補助	1) 歯髄処置の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活歯髄切断法、直接抜髄法 ・根管治療、根管充填
17		歯内療法トレーディング	
18	口腔外科の診療補助	1) 問診・観察・検査	<ul style="list-style-type: none"> ★確認テスト ・麻酔、点滴 ・吸入鎮静法
19		2) 術前管理	
20		3) 抜歯の器材	
20		4) 口腔外科手術	
20		5) インプラント	
21	小児歯科の診療補助	1) 診療補助と歯科衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・顔面写真、口腔内写真 ・印象採得、画像検査 ・バンド装着器具 ★確認テスト
22		2) 保存修復	
22		3) 外科的処置	
22		4) 咬合誘導	
23	矯正治療の診療補助	1) 検査の補助	
24		2) 顔面規格写真	
24		3) 矯正歯科用器具・材料の準備と取り扱い	
24		4) 可撤式装置・固定式装置	
25	歯周病治療の診療補助	1) 歯肉切除術	<ul style="list-style-type: none"> ★確認テスト
26		2) 歯周ポケット搔爬術	
26		3) 新付着術	
26		4) フラップ手術	
27		5) 歯周組織再生誘導法	
27		6) 遊離歯肉移植術	
28	高齢者歯科診療の補助		
29	実技テスト		
30	実技テスト		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論(後期)	歯科衛生学科/2年次	2019年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15/30回	2単位(60時間)	必須	北原 恵子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

様々なライフステージにおける歯科医療に対応するため、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を習得する。

【実務経験有】北原 恵子:歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 偶発事故に適切な対応ができる。
2. 在宅訪問治療時の高齢者の対応ができる。
3. 前歯、臼歯用の暫間被覆冠を作製できる。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	全身疾患をもつ患者と 歯科診療補助	1)患者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器系疾患 ・脳血管疾患 ・呼吸器系疾患 ・代謝性疾患 ・肝疾患 ・腎疾患 ・血液疾患 	
2		2)医療従事者への対応		
3		3)現場で起こりうるヒヤリ・ハット		
4				
5	在宅訪問時の診療補助	1)在宅における歯科診療補助の概要	・在宅サービスの状況	
6		2)在宅訪問診療の流れ		
7	コンポジットレジン充填実習	1)Ⅲ級窩洞充填実習		
8		2) "		
9		暫間被覆冠作製実習		1)前歯
10				2) "
11				3)臼歯
12				4) "
13				5) "
14	6) "			
15	7) "			
			事前学習	
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する	

[使用テキスト]

- ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版
- ・最新歯科衛生士教本「臨床検査」
全国歯科衛生士教育協議会 監修
医歯薬出版株式会社
- ・デンタルハイジーン別冊 歯科衛生士のための
全身疾患ハンドブック

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- | | |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率 | : 10% |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論(後期) (臨床検査)	歯科衛生学科/2年次	2019年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15/30回	2単位(60 時間)	必須	野田 陽子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 臨床検査のために必要な機材の使用法を習得する。</p> <p>【実務経験有】野田 陽子:臨床検査技師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体検査の準備ができる。 2. 検体検査の準備ができる。 3. 口腔領域の臨床検査の準備ができる。 4. 基本的な病変のエックス線所見を概説できる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	臨床検査とは	1)臨床検査の倫理と安全	<ul style="list-style-type: none"> ・検査の種類 ・検査値の読み方 ・主な疾患・病態別検査値の捉え方
2		2)臨床検査の必要性	
3		3)どんな検査があるのか	
4		4)検査成績の読み方	
5		5)基準値とその変動	
4	生体検査	1)体温検査	<ul style="list-style-type: none"> ・採血、血液検査、 ・血液型検査 ・培養検査
5		2)脈拍検査・血圧検査	
6	検体検査	1)血液を用いる検査	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞診 ・赤血球の検査 ・白血球の検査 ・出血性素因と止血の仕組み
7		・血液検査	
8		・血液凝固検査	
9		・生化学検査	
10		2)感染症検査	
9	主な疾患・ 病態別検査値の捉え方	3)病理検査	<ul style="list-style-type: none"> ・塗抹検査 ・細胞診 ・糖尿病 ・血友病、貧血 ・肝炎 ・高血圧、心疾患
10		1)疾患、病態のポイント	
11	口腔領域の臨床検査	1)口臭検査	<ul style="list-style-type: none"> ・口臭の種類、検査の種類と方法 ・金属アレルギー ・観察の留意点 ・唾液検査の意義 ・唾液検査の種類と方法 ・エックス線の読影法 ・歯肉の検査、齶蝕の検査
12		2)味覚検査	
13		3)舌、口腔粘膜の検査	
14		4)唾液検査	
15		5)歯周組織検査	
15	6)歯の検査	<p style="text-align: center;">事前学習</p> <p>次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する</p>	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本「臨床検査」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10% 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
医学基礎	歯科衛生学科/2年次	2019年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	菊本 暁人(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

病院や在宅において歯科衛生士としての役割を学び、様々な対象者を口腔内からだけでなく、広く捉える考え方ができるよう基礎的知識を学ぶ。介護技術や、他職種との連携、チーム医療の一員として歯科衛生士の必要性を学ぶ。

【実務経験有】菊本 暁人:看護師の資格を活かし、業務経験をもとに介護技術や他職種との連携に対する知識や技術を学生へ教授する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. チーム医療の必要性を述べることができる。
2. 高齢者の加齢に伴う身体的変化、取り巻く環境について学び、自分の意見をまとめることができる
3. 口腔咽頭吸引の基礎的知識を身につけ、基本技術をシュミレーションモデルで実施できる。
4. 病院での周術期における看護師の援助を学び、歯科衛生士として役割を説明できる。
5. 高齢者にかかわる医療と介護の中で在宅医療における連携の重要性を説明できる。

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	病院における歯科衛生士の役割	1) 病院の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟と外来での歯科衛生士の役割 ・周術期の全身管理と口腔衛生管理 ・看護の基本的役割 ・看護活動の過程 ・保健医療福祉活動の中での他専門職との協力 <li style="text-align: right;">★小テスト ・血圧測定 ・聴診器の使用法と実際 ・的確な手技の習得 ・看護の場における口腔ケアとは ・摂食障害 ・さまざまな患者への接し方とその対応 ・安楽な体位と体位変換の実際 ・罨法の種類 ・包帯の種類 ・吸引の目的 ・各種の吸引器 <li style="text-align: right;">★実技チェック ・患者の全身状態の把握 ・外来診療における救急法 ・入院患者の看護 ・看護師との業務提携 ・主な疾患とその看護について <li style="text-align: right;">★小テスト ・保健・医療・福祉の現行制度とサービス体系の内容 ・介護保険の仕組み ・訪問時の注意事項 ・対象の把握 ・在宅ケアに関わる職種 ・老人保健福祉在宅サービスネットワークの概要
2	看護の概念	2) 病院で働く歯科衛生士の役割	
3		1) 看護の歴史	
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術	2) 看護とは	
5		3) 看護の実際	
6		4) 看護師の活動場所	
7		1) バイタルサインについて	
8		2) 口腔のケア	
9		3) 摂食について	
10	歯科衛生士に必要な看護実務	4) 患者への支援	
11		5) 安楽をはかるための看護用品	
12		6) その他の看護技術	
13	地域医療活動における歯科衛生士の役割	7) 吸引のおよび吸入	
14		1) 治療結果に沿った観察と記録	
15	まとめ	2) 病院歯科外来での業務	
		3) 口腔外科患者の基本的看護	
		1) 地域社会における看護のあり方	
		2) 高齢者保健福祉対策のあゆみ	
		3) 要介護高齢者の精神的、身体的特徴	
		4) 訪問口腔衛生指導の実際	
		5) 保健医療行政機構・福祉チームとの連携	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてプリントを用いて予習する

<p>参考文献</p> <p>・「歯科衛生士のための看護学大意」 全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会 編集 医歯薬出版株式会社</p>	<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)</p> <p>1) 科目終了時の最終試験の評価 :100%</p>
---	--

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
特別活動	歯科衛生学科/2年次	2019年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	坪田 ゆかり (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 歯科衛生士業務を取得するために、地域歯科保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床実習に臨む心構えや知識、技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者からの要求を理解した対応ができる。 2. 安全管理に配慮した行動ができる。 3. 集団を対象に歯科衛生教育活動が実践できる。 4. 指導者からの指示内容を理解した行動ができる。 5. 現場に応じた業務記録の記述ができる。 			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	スタディモデル作成	1)咬合採得歯科用石膏の注入方法	・対象者の理解 ・資源を無駄にせず、グループ間で役割を決める ★教員チェック ★教員チェック ★教員最終チェック
2	スタディモデル作成	2)研究用模型作成	
3	スタディモデル作成	3)研究用模型作成	
4	スタディモデル作成	4)研究用模型作成	
5	グループ活動	1)シナリオ作り	
6	グループ活動	1)媒体づくり①	
7	グループ活動	1)媒体づくり②	
8	グループ活動		
9	グループ発表	1)各学年ごとの発表	
10	グループ発表		
11	グループ発表		
12	グループ発表		
13	グループ発表		
14	グループ発表		
15	グループ発表		
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキスト、プリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
新人歯科衛生士 デンタルスタッフポケットマニュアル		1) 課題・レポート : 90% 2) 出席率 : 10%	